



# ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2016年11月1日

11月号・第178号

奈良・人と自然の会

会長 鈴木 未一



9月例研・統国寺(ベルリンの壁の前にて)

## Contents

ホームページでは、カラーで見ることが出来ます

URL <http://www.naranature.com>

壮春力歩	1	青垣春秋	12
多土済々	2	俳句百景	13
Monthly Repo.ならやま	3	癒しの散歩道&ならやま茶論	14
里山の今	4・5・6	ギャラリーならやま	15
10月一泊研修旅行・報告	7	ならやまプロジェクト	16
9月・月例研修会・報告	8	行事案内part1	17
9月・自然教室・報告	9	行事案内part2 & 行事予告	18
芋掘り&稲刈り・報告	10	幹事会報告・編集後記	19
「鳥」シリーズ&字遊字感	11		

# 壮春力歩

会長 鈴木末一

## ◆15周年記念を一層言祝ぐ三つの受賞

### ◆「第36回緑の都市賞」奨励賞受賞

携帯電話の着信音にさりげなく応答をすると、「都市緑化機構のMですが、この度、第36回『緑の都市賞・市民の協働活動部門』にて奨励賞を受賞されることに決定いたしました。誠にありがとうございます」とのことであった。7月から9月にかけて書類審査が行われ、現地の確認とヒアリングが行われることもあったとのことでした。時は過ぎ、問い合わせなどもないので、半ば諦めかけていたのです。14ページにわたる応募書類の作成に当たっては、本部役員の皆様方のご意見を集約し、奈良県くらし創造部景観・自然環境課の係長さんとも相談の上で正式書類にまとめ、提出しました。係長さんから15周年のメモリアルな年であるので、推薦者の欄には、奈良県知事荒井正吾と記入していただいていたので結構ですと、誠に心強いお言葉をいただきました。

緑の保全と緑化の推進は、地球温暖化の抑制や生物多様性の保全等、持続的な環境の改善につながるとともに、人々の暮らしに潤いと安らぎを与え、健康の増進や次世代を担う子供達の育成など様々な効果をもたらします。

緑の都市賞は、樹木や花、水辺などの「みどり」を用いた環境の改善、景観の向上、地域社会の活性化、青少年の育成等に取り組み、環境や社会に対する貢献の実績と成果をあげている市民団体、企業、公共団体等の団体を顕彰し、快適で地球に優しい生活環境の創出を推進することを目的として、顕著な活動に対して表彰されるものです。

正しく当会の今日迄の活動が、このような目的に合致していると認知していただいたこととなります。それだけに全国の多くのボランティア団体関係者を初め、関係機関から注目されるものと思います。そのような意味合いからも、身の引き締まる思いで一杯であります。

### ◆「あしたのなら表彰」受賞

ならやまでの活動が終わって帰宅し、着信記録を確認すると、奈良県広報広聴課からの着信があ

り、日常色々な問い合わせなどの電話がありますので、どのようなことなのか、との思いで問い合わせました。すると丁度電話を掛けていただいた係長さんが応答されました。「この度は誠にありがとうございます。第7回『あしたのなら表彰』を受賞していただくことになりました」とのことでありました。まさかと思っていたのですが、緑の都市賞に続いてのダブル受賞の知らせでした。

「あしたのなら表彰」は、県全体を元気にしていくため、奈良県のPRや魅力向上に寄与する活動や地域での社会貢献、また元気や感動を与えてくれるような活動をしている個人または団体を顕彰している奈良県の制度であります。

係長さんによれば、16haにも及ぶ広大な歴史的風土の景観整備と保全に取り組み、荒涼殺伐としていた里山・里地を、昔日の面影が偲ばれる日本の原風景復活を実現しつつあるという社会貢献度に、選考委員の皆さんも感銘を受けておられたようだった、とのことでした。

### ◆「生物多様性アクション大賞」入賞

さらに、追いかけるように「生物多様性アクション大賞2016」・「まもろう部門」に「入賞」との朗報が飛び込んできました。図らずも三連発受賞となりました。

同大賞は、「国連生物多様性の10年」の、日本における広報活動の一環として2013年にスタートしました。豊かな生態系を未来に残すため、森・里などを舞台に、自然や生きものの調査・保全・再生などを行っている活動に与えられます。

会設立以来15年、そしてならやま景観整備プロジェクト10年間、皆様方お一人お一人のたゆまぬ献身的なご努力が花開いたものであります。

みなさん、この“トリプル受賞”を機に、力を一段と結集し、「ならやまユートピア」の創出に頑張りましょう。

### ◆表彰式の日程

「緑の都市賞」：11月11日（金）

会場：東京・明治記念館

「あしたのなら表彰」11月13日（日）

会場：東大寺総合文化センター

「生物多様性アクション大賞」：郵送

秋日和 吉報届き 恵比寿かな



# 田中 克彦さん

名匠ここにあり

顧問 川井 秀夫

この方との初対面の記憶が蘇ってきません。確か「そばクラブ」発足間もない頃、慣れない手つきでソバ打ちのレッスンを受けていた折、師範代として手際よい手捌きに見とれていたのを憶えております。酒屋さんや氷屋さんのご主人が付ける前垂れが印象的で、太い二の腕が器用に動き、流石と感心したものです。

以来、当会の自然工作チームの指導役としても見事な作品作りに寄与され、イベント・出前教室など存在感を発揮していただいております。



今年のお正月、私の申年に因み、自作の猿の置物を頂きました。見事な作品で、シニア時代に色々な名人を見てきましたが、この方の右に出る人は居なかった様に思います。

私など生来、手先が不器用で、小学生の頃、工作の宿題で「舟」の作品を持っていきましたが、周囲から嘲笑されすっかり落ち込んだ事がありました。爾来、人様の作り物にコンプレックスを感じる事がしばしばで御座います。

今、南港で工作教室のリーダーとしてもご活躍の由、私も十数年前になりますが参画した時期があり、性に合わず尻尾を巻いて退散致しました。もう少し若ければ田中師匠に入門して昔の屈辱を晴らそうと思いますが、刃物で怪我するのがオチでしょうかな～。

この九月、例研の定例行事でアシスタントとして、下見、本番とご一緒になり色々とお話しいお話しをさせていただきました。

大阪・生野のご出身。家業を継がれ食品関係の卸し問屋として天王寺一円を主体に営業活動をしてこられた由。予測のできない仕事で解放されるのが夜半時、酒が好きで業界仲間とオダを挙げる日々が多かったと話されます。例研の打ち上げで新世界の居酒屋で酒杯を交しましたが、過ぎし日の新世界を闊歩された雄姿が彷彿とします。

蕎麦打ちは関心があって近くの道場で腕を磨かれ、有段の域まで修得された様ですが、それ以上の領域は個性の世界で執着しておりませんと淡泊なご返事でした。

自然工作はシニアの時代、イベントの現場で独学で経験を積み、正に天賦の才が花開き、正に天才的な作品を残されています。「玉磨かざれば光なし」。日頃の努力の結晶と敬意を表したいと思います。



朴訥なお人柄に人間味を感じております。匠として当会の技能に大いに手腕を発揮して下さい。お酒は自制されておられる様ですが、いつの日か酒談義の機会をお待ちしております。健康管理には十分ご留意ください。

秋日差す匠の背ナかがやの耀けり 秀夫



# Monthly Repo. ならやま

八木 順一

## 9月22日(木) 活動 曇り 53名+1名+1名

天気も午後まで持ち、成果も上がる。里山Gは枯れ木の伐採を中心に、エコGは野菜の移植や畑の畝寄せ、景観G

は彩りの森の草刈りを重点的に行う。また、ビオ班は池の整備、花班は花の撤去やあぜ作り、



そしてパト班はコース巡回に加え、観察路の整備に取り組む。近々の台風の影響も大きく、その分作業も大変になる。また、実習生が作業中に負傷し対応が大変だった。日頃から怪我や事故への対応をしておくことの大切さを実感。また、打ち合わせでは、イベントへの勧誘のほか、サイト場所移動について連絡を行う。外部から2名来訪。

## 9月30日(金) 振り替え活動 晴れ 48名+1名

振り替え活動。天候に恵まれ、仕事も捗る。秋野菜の収穫や花の種まき、そして草刈りのほか薪

の準備や水生生物調査等仕事が目白押し。いよいよ収穫の秋本番である。また、痛んだ観察路の修復に頑張っ



た班もある。打ち合わせでは、来週の協働作業の段取りや、怪我や事故の際の対応、そして、引き続き見つかったカエダケへの注意が喚起される。

10月からの当会入会予定者1名来訪。

## 10月6日(木) 活動 晴れ 65名+2名+1名

協働作業は里山の散策路の整備。草や枯れ木等に覆われ、安全上問題があったが、これで一安心。これからも継続して作業



を続ける必要がある。各Gは薪の準備や野菜の撤去、そしてBC付近の草刈りと大忙し。また、花の種まきや月例のミーティングに取り組んだ班もある。打ち合わせでは、協働作業の段取りの他、例会案内、そしてイベントへの協力・参加要請等が行われる。他団体から2名、そしてシニア生1名、計3名の来訪者があった。

## 10月13日(木) 活動 晴れ 65名+1名+1名

芋ほりイベントを控え、打ち合わせや準備物の確認でサイトは大忙し。打ち合わせではスズメバチへの注意喚起や一泊研修の連絡等を行う。また各Gともイベントや冬に向けての仕事の準備で大変な作業が続く。里山Gでは枯れ木の伐採、エコ

Gは畑の土寄せや施肥、そして景観Gは駐車場やサイト周辺の草刈りを行う。その他花班は花畑の整地、ビ



オ班は水生生物調査、また、パト班もパトロールの他観察路の最終確認に出る。来訪者2名。

## 10月15日(土) イベント 65+20名+17名

芋ほりイベント。サイトには70名が集合。好天に恵まれ、無事終了。午前中は芋ほり。形や重さ、そしてつるの長さを競う。昼食では豚汁を堪能した後、午後はサイトや里山でゲームや遊びに興ずる。終わりには、焼き芋をほお張りながら、

掘ったばかりの芋をお土産に岐路に着く。次回のイベントにも積極的に参加して欲しい、と当会の希望を伝える。



## 10月20日(木) 活動 晴れ 71名+4名+23名

強い日差しの中での活動。佐保台小児童が稲の刈り取りに来訪。また、昼食にサンマが供され、秋の味覚を堪能。活動は、畑や池、観察路の整備やソバ畑の草刈り、その他稲刈り補助と多岐にわたり、秋本番を迎える。打ち合わせで当会の受賞報告がなされる。有難いことである。来訪者多数。

**里山グループだより**

池田信明

**早すぎる里山の紅葉風景**

- カエデ : アラッ、ソヨゴおじさん、久しぶり。
- ソヨゴ : オオッ、カエデちゃんいつも元気やね、そろそろ紅葉化粧の準備かい。
- カエデ : 今年の夏は暑すぎて夏バテなの、紅葉化粧の色乗りが心配なのよ。
- ソヨゴ : 確かに暑すぎたな、先日見た矢田丘陵の山肌が、まだ夏なのにもう茶色に紅葉してたで、今年は早すぎるがな。
- カエデ : そうそう、生駒山の山肌も今茶色に紅葉してるけど、これ何かの病気ですか？
- ソヨゴ : テレビでも、里山近くの住民が「今年は山の紅葉が早いし色もおかしいな」、専門家の説明では、里山の紅葉の原因は「なら枯れ病」の被害木のコナラ、クヌギなどの枯葉の色だとか、話してきましたで。
- カエデ : 来年は、コナラやクヌギさん達には会えなくなるのかな、寂しくなるなー。
- ソヨゴ : いやいや大丈夫だよ、ならやまのおじさんやおばさん達が、コナラやクヌギの苗木を植林して若い元気な仲間を増やしてくれているし、里山の仲間を優しく見守ってくれているから安心だよ。じゃ、カエデちゃん、秋になったらきれいな色の紅葉化粧姿を見せてね。
- カエデ : ならやまの様な素敵な里山で育ち生きている私達は幸せですね。ソヨゴおじさん、秋にはカエデのきれいな紅葉化粧姿を見に来てね、もみじ饅頭とお茶が出ますよ。



**エコファームだより**

宮崎 まさ美

一茎に百数十粒・一株が数株に、ただ一粒のモミが育って、い

ったい何粒のお米になるのだろう。子供達の植えた稲は力作の案山子に見守られ、頭を垂れている。垂れ過ぎて、倒れてしまったものも多数。引き起こし、束ねて立たせたけれど、これまた重労働。泥に足を取られて、こけそうに。



こちらは大根。一粒は、一本の大根にしかならない。へたすると、一本の大根にもならない。既に間引かれて、誰かの胃袋に収まってしまったのもいる。この種一粒の値段を聞いてびっくり。冬場に売られる“1本100円”は安い。安い。

人参畑で。蒔き直したにもかかわらず、まばらにしか生えていない。この貴重な人参の葉をアゲハの幼虫がせっせと食べている。ここにも、ここにも……。大小さまざまに幼虫が育っている。果たして、土の中の人参は育っているのだろうか。

種まきの後、順調に発芽した野菜畑は美しい。ホウレンソウ・コマツナ・ナバナ・ミズナ・レタス……。一週ごとに緑が増え、丈が伸びる。柔らかい緑に、虫たちがよだれを垂らして待っているに違いない。ああ……。

野菜売り場に見る大根も人参も葉物野菜も美しい。種をまき肥料をやって草を引けば、売っているような立派な野菜が育つものと思っていたが、そうではない。売り場では、高いの安いのと値段のことばかり思っていた。しかし、そこに来るまでの生産者の努力が、ほんのチョビット考えられるようになった。エコファームは頑張っている。

みなさんも、ならやま産の無農薬野菜を、心してお買い求めください。





**景観グループだより**

西谷 範子

**昨今の気象と植物**

少しづつ日本が温暖化するにつれ、今まで冬は部屋の中に入れて保温していた植物はほとんど露地で越冬するようになった。

春になると桜が顕著に分かるように、春の樹々の開花が一週間ほど早くなってきた。もっとも咲きかけたり止まったり、はらはらさせながら、最後はきちんと入学式の写真に間に合うように、満開を保持してくれる温情深い桜には喝采を送りたい。

今年のように猛暑日が続くと、夏の植物にとって死活問題である。加えて7月から8月はほとんど雨が降らず、種は芽を出さなかったし、せっかく芽を出して育ち始めた苗も全滅状態となった。

エコファームの野菜も同様であろうが、普通7月末から8月に種を蒔く大根や葉牡丹などは、8月末になっても35～6度では種蒔きが出来ない。30度を超すと種は寝てしまって芽を出さないのである。種袋に記載されている蒔き頃は、この頃の露地栽培には合わなくなってきた。

今年は10月になっても30度を超えた。9月にもう待てないと種を蒔き、恐る恐る芽出しを待つ。ところが今年の9月は台風と秋雨前線の活動が激しく、今度は毎日が雨で太陽の光が届かない。やっと芽を出した苗は茎もひょろっとして細い。種蒔きが遅かったのだから急いで生育してたくましい苗にしておかないと、今度は冬の寒さに対応できない。葉牡丹に例をとると、9月、10月で大株にしておき、11月朝夕の寒さがくると、色づき始めるのである。

10月10日過ぎ一日で気温が10度下がった。一日で長い夏から秋になったのである。ひょろ長い苗は11月の色づき迄には大株になれないだろう。市井の野菜の高騰も異常気象に翻弄されているのだろう。

そして・・・8月に、お節料理の折り込みチラシが入ってきた。8月にお正月料理の予約が始まったのである。この季節感覚、嗚呼・・・。



**パトロール班だより**

辻本 信一

最近の温暖化で私達の季節感も随分怪しくなってきましたが、

9月、10月と言えば台風シーズン。この時期、ならやまでも、台風の直撃とは行かないまでも、近畿地方を通過する台風の影響を幾度となく受け、時に強風が吹き荒れました。

自然林、里山林を問わず、ナラ枯れ被害を受け枯木と化したコナラの幹、枝はこの強風にひとたまりもなく、散策路上には多くの落枝、倒木が見られました。なかには一人二人では到底動かしきれない大木もあり、我々パトロール班メンバーだけでは手に負えません。そんなことから10月6日、月初めの一斉協働作業にならやま散策路整備(主に倒木処理と下草刈り)が計画されました。

朝から40名近くの人員を3班に分け、主だったところの倒木処理を行い、合わせて夏の間繁茂し腰のあたりまで伸び放題となっていた笹や雑草の下草刈りを実施しました。**【全員で散策路上の落枝除去】**



作業は順調に進み、1時間を待たずして終了。足元のすっきりしたルート復元に、協働作業の威力を改めて実感致しました。**【すっきりとした散策路復元】**



9月末には我がならやまの自然林内でもカエングダケの発生を確認。早急に対処しこれまで3つの個体を処分致しました。こうした中パトロール班の役割も今後ますます重要度を増すと考えます。メンバー一同、これまで以上に緊張感をもって対応していきますので、これからも皆様のご理解とご協力よろしくお願い致します。



**ならやま虫だより**

菊川年明

◆ハリガネムシ

カマキリなどの体内から細長い虫が出てくることがある。これはある種の昆虫の体内で生育するハリガネムシという寄生虫(線虫)である。長さは20~30cmくらいのもが多く、大方はカマキリから出てくるが、キリギリス類やゴミムシ類から出てくることもある。よく目につくのは、道でクルマに轢かれて死んでいるカマキリの傍にいたりするところである。まだくねくねと動いていることもあるが、死んで干からびていることもある。

ハリガネムシは、本来は水中にいる生物であるが、どのようにしてカマキリなどの体内に入り込み、その後どうなるかということは次のような経過を辿る。

- \*ハリガネムシ(成虫)が水中の水草に産卵する。
- \*卵は孵化して幼虫はプランクトンに寄生する。
- \*プランクトンが水中の昆虫(幼虫)に食べられ、ハリガネムシの宿主が替わる。
- \*宿主の昆虫が成虫になって陸上に出たものをカマキリなどに食べられて、ハリガネムシはもう一度宿主を替える。
- \*成熟したハリガネムシは宿主の昆虫の脳を操り、水辺に向かわせる。
- \*宿主の昆虫が水に浸かるとハリガネムシは尻から脱出して水中に戻る。

「宿主の脳を操って水辺に向かわせる」というのは何とも不思議なことである。それに「風が吹けば桶屋が儲かる」というような迂遠な経路を辿るから、成功する確率は如何なものであろうか。

写真はオオゴミムシ(体長約20mm)の体内から出てきたハリガネムシで、3匹も入っていた。



**ならやま花だより**

桜木晴代

ある朝、新聞の写真入り一面広告で手が止まりました。美しいア

ケビの花が目にとびこんできたのです。どこかの園芸店の広告と思いきや、なんと、昆布の佃煮屋の広告だったのです。

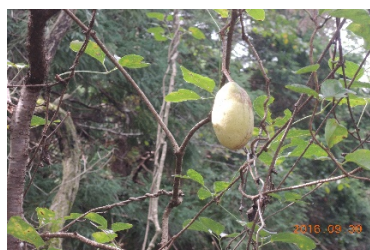
なんで昆布の佃煮にアケビ?



その記事には「はじめに、発酵エキスを作るんです。昆布をベースに、果物や発芽玄米などの素材にアケビの花からとった天然酵母を加えて、大きな樽で寝かせます」とありました。

味にどんな影響をもたらすのでしょうか。

9月下旬の里山林ではアケビが実をつけていました。地面にはカラスか何かがつついた実も。



**アケビ(木通)** \*アケビ科アケビ属\*アケビ・ミツバアケビ・ゴヨウアケビの三種\*果実は甘い\*種は黒く小さい\*鳥などにより種は広く散布する\*皮は天ぷら等で食す\*蔓は工芸品に利用  
**アケビの種の油**

江戸時代、アケビの種の油は、ゴマ油の5倍の値で江戸の料亭に売られていた。しかし、搾取に手間がかかるため、簡単に採取できる他の油に取って代わられた。マウス実験で、アケビの油は体脂肪が付き難く、生活習慣病の予防に良いということが実証され、現在も秋田県の仙北市では実用化に向け研究中とのこと。店頭にあけびの種の油が並ぶのもそう遠い話ではないかも知れません。



## 15周年記念一泊研修

錦秋の美作・西播磨の自然と文化を訪ねて！

小島 武雄

今回の研修旅行は、「奈良・人と自然の会15周年記念の美作・西播磨を訪ねて」でした。10月18日(火)、快晴に恵まれ、参加者28名。

生駒交通の中型サロンカー利用で、移動時間約2時間。最初の兵庫県立加西フラワーセンターでは、見学時間が少なくガイド説明も慌ただしく、ベゴニア花壇など見学、ほか菊花展やダリアを楽しみ、一路奥津温泉へ。バス乗車時間が長いため、車内では漢字クイズで頭の中を柔軟体操、皆さんだいぶ凝り固まっていました。

奥津温泉花美人の里では、立派な木製トラス音楽ホールの中で昼食。これまた足湯に入る余裕もなく、メインの岡山県立森林公園へと森の道をくねくねとバスは走って行きます。森の匂いに包まれた、標高900mを超えた山中は少々肌寒い。紅葉が始まる広大な森林公園を2時間のガイドツアーへ。ドングリや落ち葉で敷き詰められた道を登り降りし、ブナ、ミズナラ林の紅葉、から松林にそびえる樹齢200年もの大木の六本杉、オオヤマサクラ、たたら跡など、時折清らかな溪流を見ながら散策。ハウチワカエデ、トチノキ7枚、コシアブラ5枚、タカノツメ3枚で七五三の葉。ガイドさんのお話はわかりやすく、展望台からの眺望も素晴らしくて、是非再度訪れたいと思う。この森林公園は11月には雪で閉園する事になります。

夕方近くに蒜山高原へ。ワイナリーで山ぶどう酒の試飲後、蒜山高原休暇村に到着。一面の放牧地の緑が広がり、雄大な蒜山3座のパノラマが、部屋の窓いっぱいに見え、リゾート感満喫。翌朝、窓の外は一面ミルク色のガスが広がり、100mくらいの視界です。これまた幻想的な風景を楽しめました。出発時にはホテル前の鮮やかな紅葉をバックに記念撮影。綺麗に晴れた清々しい高原を、塩釜の冷泉へ。水温11度のとても冷たい湧き水で喉を潤し、スカイラインを抜け鬼女台展望台へ。



まだ紅葉はものたりませんが、名峰大山の裾野が見える大パノラマを堪能して、次の城下町、勝山町並み保存地区へ。岡山県真庭市のこの街並みは、ちょうど祭りの真っ最中。地区連の法被若衆が威勢よく声をかけて地車を引き、沢山のお神輿が練り歩き、小さな子達も可愛い法被姿で微笑ましく、懐かしい故郷の祭りを思い出すことになりました。城下町の蔵元、御前酒のお店では嬉しい樽酒の振る舞い。昼食後は街並をゆっくり、たっぷり散策できました。

バス移動中は、到着時間予想やビンゴゲームで、みなさん手づくりの景品を手にして満足いただけたようです(たくさんの手作り作品の提供、ありがとうございました)。次の乙大木谷棚田の千枚田は、大型バスが入れないとの事で、残念ながら行けず。宿場町の平福の街道をゆっくり散策、天空の利神城を望み、宮本武蔵の決闘の場を見て帰路に。天候に恵まれた楽しい研修旅行となりました。





## 9 月度 月例研修会

### 「大阪上町台地 歴史街歩き」 山本 妙子

台風18号接近との情報の中、日差し強く暑い位の大阪町歩きは、22名の参加でスタート。

近鉄上六9時30分集合。第1番目の大阪で一番古い生國魂神社境内で、川井さんから「上町台地は、遙か上古の時代に“隆起現象”で作られた。縄文期に“縄文海進”により大阪平野は一面海となったが、この台地は残ったと言われている。北は大阪城、南は住吉神社辺りまで南北に続く高台である。大阪の歴史の宝庫でもある。」との興味深い話を拝聴する。

大阪人は「いくたまはん」「住吉っさん」と、親しみを込めて呼ぶ。本殿は「生國魂造」(千鳥破風・すがり唐破風・千鳥破風の様式の違う三破風を重ねている)という、桃山時代の社殿で、境内には11の社がある。米澤彦八の碑、井原西鶴像、松尾芭蕉の句碑なども点在する。



北側に真言坂を見、「天王寺七坂」に入っていく、「齡延寺」を下り、長い源聖寺坂を西へ。

「万福寺(新選組 大阪旅宿跡)」を通り過ぎ、これでもかというほどの寺社がひしめき合う松屋町筋を南下、口縄坂を東へ登っていくと、夫婦善哉・織田作之助文学碑あり。大江神社に入り、狛犬ならぬ狛虎もあるとか。ここで小休止。

ここから見る海に沈む夕日は絶景だったそうで、ここで詠んだ芭蕉の句碑があった。

その東隣に、593年聖徳太子の創建された「勝鬘院愛染堂」(1618年再建・大阪府有形文化財)があり、「多宝塔」は1597年に豊

臣秀吉により再建、重要文化財となっている。

(「愛染さん」は愛敬・人気・縁結びの神様と親しまれ、大阪三大夏祭りの一つ「愛染まつり」では、宝恵カゴが愛染娘を乗せて、谷町筋を練り歩く)

愛染坂を上がり、海が見える料亭であった浮瀬亭跡の石碑を過ぎ、清水坂を下り、「清水寺」にて、涼しげな玉出の滝を眺める。

次は、NHK大河ドラマ「真田丸」の真田幸村が、家康と戦い、傷つき逃げてきた所を急襲され、戦死した場所と言われる「安居神社」。しばし川井さんの話に耳をかたむける。幸村の祖父の偉大さ、六文銭・紋所のいわれなど・・・。蚊を追っ払いながら興味深く拝聴する。

逢坂を残し、聖徳太子の「四天王寺」に向かう(12:20)、ここで昼食をとり、食後は田中さんの案内で、広い境内を講堂、金堂、五重塔とまわり、西門から南へ下っていく。

茶臼山を横目に見て、今回の異色ともいえる在日コリアンの寺「統国寺」へ。602年百済の僧観勒の来日による当寺は、夏の陣で焼失するも、1689年法源和尚により再建され、1969年に朝鮮統一の願いを込めて、「邦福寺」から「統国寺」と改名された。

1990年東西統一を果たした「ベルリンの壁」(たみ一畳程)が二つ、アベノハルカスを背景に据えられている。韓国人の祖国統一の願望を込めての寄贈とか。



続いて、大阪の冬の陣では家康が、夏の陣では幸村が布陣して激戦地となった「茶臼山」へ、奈良時代に和氣清麻呂が河内川の流れを南に引こうとした河底沼と共に、天王寺公園の風景に取り入れられている。(小学生時代に写生に来た茶臼山と、60年振りの再会となった)

「慶沢園」では、山野草の展示が開かれ、可憐な花々に女性達の目が釘付けに。四阿で休息を取り、本日のウォークは散会となり、希望者は新世界へ、串カツへと流れていく。

万歩計が14,000歩に、皆様、お疲れができませんでしたでしょうか。

# 自然教室だより

辻本 信一

## 9月・矢田丘陵自然観察会報告

昨年は、予備日を設けていなかったため、この時期予定されていた矢田丘陵での自然観察会は雨で中止となりました。

今回はそれを残念に思われた御宮知講師からの申し出もあり予備日を設けたのがズバリ的中、当初予定していた9月20日(火)は台風により流れましたが、翌日の9月21日(水)には雨も上がり、無事観察会を開催する事が出来ました。

観察会当日は台風一過とは言え終日曇り空のおかげで暑い日差しに悩まされる事もなく絶好の観察日和となりました。



【観察会出発前、朝のご挨拶】

しかしながら、予定変更による影響は大きく、参加者は講師の先生を含めても6名とちろんまりとした観察会となりました。確かに大勢でワイワイガヤガヤの観察会も楽しいものですが、少数精鋭での観察会は集中力も高まり、我々だけで講師の御宮知先生を独り占めできる幸運を得た事に、皆さん大満足のご様子でした。

普段なら遠慮しがちな質問も、躊躇なく次々と飛び出します。これまでのおさらいとばかり、目につく植物すべてを、絨毯爆撃するが如くみんな質問攻め。スタートから熱気のみなぎる観察会となりました。

今回の時間設定は午前9時開始のサマータイム。

棚田のそこかしこでは、秋の到来を告げる楚々とした立ち姿のヒガンバナ。



【棚田に咲くヒガンバナ】

矢田丘陵に広がる田園風景に心も弾みます。

簡単な野草でも、ホウキギクの様にウツカリ名前を忘れていた様なものも多く、頭の中の整理も出来ました。



地面に張り付いたようなコニシキシソウに対し、立ち姿のオオニシキシソウ。タカサブロウとアメリカカタカサブロ

【メモを片手に説明を聞く参加者】ウの違いは両者を手に取りじっくりと見比べ、花の大きさの違いを実感しました。

昼食を挟み、午後3時までしっかりと観察を行い、その成果は120種近くにも上りました。

それぞれの説明は、紙面の関係で割愛しますが、以下に観察会当日出会った代表的な植物の名前を列記致します。

イボクサ、アメリカミズキンバイ(ヒレタゴボウ)、コニシキシソウ、ツルマメ、ヤブマメ、センニンソウ、ホウキギク、ミチヤナギ、サワヒヨドリ、キンエノコロ、クサネム、ノアズキ、ツリガネニンジン、



【ひときわ目を引くタラの花】イヌビエ、ケイヌビエ、エノキグサ、クワクサ、カゼクサ、アキノタムラソウ、ヒメジソ、メドハギ、ネコハギ、カニクサ、フタバムグラ、ザクロソウ、アゼトウガラシ、ミゾカクシ、ウリクサ等々、まだまだ続きますが、これくらいに致します。

毎度のことながら、参加者一同、御宮知講師の博識ぶりには驚かされてしまいました。

参加者の皆さんの感想も、時に慎ましく、健気に咲く、秋の野草を観察する事ができ、大満足とのご意見が大勢を占めました。次回は是非皆様もご参加ください。お待ちしております。



**芋掘りイベント&ならやま里山林  
自然観察 実施報告**  
(森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業)

辻本 信一

平成 28 年 10 月 15 日 (土)、佐保台小学校放課後子供教室の児童 19 名、幼児 1 名、保護者 19 名の 39 名をならやまに迎え、この時期恒例の「芋掘りイベント」と森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業の教育・研修活動としての「ならやま里山林自然観察会」を実施いたしました。

スタッフとして参加した会員は 33 名。総勢 72 名が秋晴れのもと、ならやまに集いました。

午前中は、赤、青、緑、桃の 4 班に分かれ、芋のツルの長さ、重さ、ユニークな形を競うコンテストを実施。子供たちの笑顔が弾けました。

蔓の長さ優勝は 2.5m。重さは 2kg。ユニークな形のお芋比べ優勝は「さすらいの耳なしネズミ」が獲得。ネーミングの冴えに一同感嘆。



【葉っぱの福笑い】 【松ぼっくりで玉入れ】

昼食を挟んで午後からは、里山に息づく昆虫たちを題材にした昆虫クイズに始まり、サツマイモクイズ、ミラーウォーク、更に里山での自然観察の合間には動物かくれんぼ、松ぼっくりの玉入れ、葉っぱの福笑いをし、みんなで楽しみながら自然の素晴らしさを学びました。

朝 10 時から午後 3 時までの時間もあつと言う間に過ぎ、閉会式が済んでからも、あちこちで子供達の名残を惜しむ声が聞こえました。

当日書いてくれたアンケートにも、「楽しかった」、「勉強になった」の言葉が溢れます。

私たちの活動が報われた瞬間です。

これからも次世代の子供達に自然のすばらしさや大切さを伝えて行きたいと思ひます。

**～佐保台ファームの取り組み～  
総合学習としての水稻栽培体験**

鈴木 末一

佐保台小学校 5 年生の水稻栽培体験学習は、早いもので 8 年目を迎えました。昨年までは、10 数名でしたが、今年は 23 名となり、元気っ子たちの昂ぶる声が、ならやまに鳴り響きました。

10 時にベースキャンプに到着し、挨拶に続いて稲刈りの説明を受けた後、水田で西出さんから稲刈りの実演指導。早速、南北 2 班に分かれて作業を始めました。大多数の児童は、初めて体験するだけに、稲株を刈り取るのに、鋸鎌をまるで鋸のごいごいとしと何回も往復させて、やっと刈り取っていました。しかし、数株刈り進めるうちに、次第にこつをのみこみ、手際よく作業が進むようになってきました。

学校の校時との関係があり、約 1 時間余りではありましたが、スムーズに刈取りも終り、稲架けの要領などを聞いて、体験学習は無事終了しました。



6 月 4 日に田植えをして、7 月下旬に生育観察、そして、稲刈りと続いた一連の水稻栽培学習は、まさしく「百見は一体験に如かず」であったに違いありません。

5 月の中旬に、水稻がどのようなルートで日本へ伝来してきたのか、また、今日の日本の食糧事情は、どのような状況なのかなど、約 1 時間の事前学習会の時に感じられた表情と、体験を積み重ねている時とでは、随分と変化してきたように感じられます。それは、どの子からも、楽しく意欲的に学ぼうとする姿が読み取れるからです。



**鳥シリーズ 11月号 小田久美子**  
**「アオサギ」**

アオサギはサギ科で 93 cm。翼を広げると 160 cm にもなる日本のサギ類では最大級です。

北海道では夏鳥ですが、本州と四国では海岸・干潟・小沼・池・湿地・河川・水田と広い範囲で通年普通に見られる鳥になりました。

水面を見つめてじっとしているので、ホテルなどの池では置物かと思ってビックリする方が多いです。バードウォッチング B W を始めた頃の私は、頭の様子が見形半平太のようだなあと思ったりしました。

食べ物は魚類の他、両生類、爬虫類、小型哺乳類、鳥の雛など広範囲で、嘴で挟み捕るだけでなく、嘴で突き刺すこともあります。

他のサギやウたちと一緒にねぐら 埒を作り、その集団が落とす糞尿で周りの木々が枯れ、異臭で近隣の住民に迷惑な存在でもあります。

奈良県では、1980年代から少数が見られる程度でしたが、最近ではサギと言え本種と言う程の増加傾向にあります。

天気の良い日には、水辺の杭や岩の上で翼を半開きにして日光浴する姿は、チョット間抜けな感じで私は好きです。

ゆったり飛ぶ姿はコウノトリやツル類のようですが、彼らサギ類は頭をS字型に縮めて飛びます。

日本画で松に鶴が描かれますが、鶴はほぼ地面にいますし、アオサギたちは良く木の上にとまるので実態とは少し違うのですが、お目出度い取り合せに異議は唱えられません。



【アオサギの日傘と雛 (撮影者上山)】



**陶芸の薪窯 (まきがま)**

**小島武雄**

その窯は、京都府南丹市八木町集落から離れた山の中にあります、穴窯とも言い、斜面地に穴を堀抜いて作ったものです。

石組みの入り口から、奥に何列にも素焼きの作品を積み上げていきます。薪を燃やし窯の温度を徐々に上げてゆき、1日目に900度まで、2日目には1200度にします。そこからその温度を維持しながら、延べ60時間燃やし続け、3人で交代してずっと徹夜です。

燃やす薪は赤松の割り木、2トントラック1台分(500束)を、温度を見ながら、少しずつ1時間おきに投げ入れていきます。

その瞬間煙突からは一時火花が舞い上がり、もうもうと黒い煙が吹き上がります、たまに消防車が何ごとかと見に来ます。

窯中の作品は、信楽土を使っていますが、この焼成で釉薬は通常掛けません。電気窯や石油窯では、表面の釉薬を溶かして仕上がりますが、薪窯は温度が高く長時間のため、土の内部の成分が溶け出して釉薬代わりになる為です。

直接炎が当たる処とそうでない処では、仕上がりが微妙に変わるので、作品の置き場所も考えます。

また薪の燃えかすの灰が土の表面に降りかかり、これが釉薬代わりになり、趣のある仕上がりになる事も楽しみです。

そして、窯の火を消して1週間後まだ熱さの残る窯から作品を取り出す、ワクワクの時です。私の子猫は、立派な壺や素敵な茶器に囲まれ、居心地悪そうに、顔を覗かせていました。







## 隠れ古社寺 ひとり旅 (28)

### 三松禅寺と富本銭出土地

歴史文化クラブ  
川井秀夫

秋の薄日和の一日。東洋一の達磨大師の絵があると聞き、平城京の南端「九条駅」に足を運ぶ。

#### 三松禅寺

駅から北西へ500米。小高い丘陵に石垣が目立つ。門前から参道を経て本堂に参拝、唐破風の廂がこの寺の格式を感じさせ、本尊の前まで出入り自由、諸仏に拝礼するも人影がない。お目当ての達磨は何処なのか、うろうろしていると寺務所の女性とばったり。どうやら入口を間違っただけらしい。女性の懇切な案内で回廊を経て坐禅道場に入ると、百畳敷の板敷の正面奥に眼光炯炯の達磨大師の画像。立ち竦むほどの大きなお姿にただただ圧倒される。



暫し坐禅を組み瞑想する。ややあって大師の声「心眼で何が見えるかの～」「いや何も見えません」「まだまだ修行が足らんのじゃ～」「もう歳で足が痺れております」「お歳から小僧と云わんが貴公はまだまだ凡人じゃヨ」「ハハア～出直して参ります」……。現実に還ると道場の高窓に秋日が燦々。そうだこれだ、「空を見て地を知る」何かを会得した思いで辞去する。

この寺は785年。桓武天皇の皇后藤原乙牟漏ふじわらののおむろの勅願寺として建立。1639年。郡山城主・本多

政勝が再興し、松平・柳澤家に受け継がれ今日に至る。達磨大師の絵は、旧一万円札の聖徳太子を描いた肖像画の第一人者 馬堀喜孝画伯によるものである。

#### 富本銭出土地

踵を返し九条駅に戻り東へ500米、九条公園がある。約4.6畝の広大な敷地に多様なスポーツ施設、子供の遊具が点在して昨今人気スポットになっている様だ。



富本銭 (表面)

1985年。造成に先立ち奈文研が発掘調査の際、日本最古の貨幣とされる「富本銭」が出土した。この事が端緒と

なって1999年、飛鳥池遺跡で富本銭の鋳型が発見され、七世紀後半に明日香で造られていたことが立証される。

公園正面から100米ほど、「富本銭出土地」の標柱が立つ。ここにあった井戸跡から一枚の歴史的な銭貨が発見されたと言う。「富本」とは「国」と「民」を富ませる本の意。この時代を境に「和同開珎」として全国的に流通し始め、物々交換から貨幣経済への社会改革が急速に浸透したことを物語る。



達磨大師の恫喝と一片の出土品が古代の歴史を作る。正に洗心と驚愕の一日であった。

天高し達磨大師に叩頭す 秀夫

# 俳句の星

監修 川井 秀夫

金木犀零れてもなほ華やげり こぼ 西谷 範子

この時季、街角を歩いていると甘い香りが鼻腔をくすぐる。金箔を散りばめて路面になほ華となる。作者の繊細な感性。

白虎駆く四神館の明日香秋 しんやかた 西谷 範子

飛鳥にキトラ古墳の宝物館がある。「史記」では白虎を白秋とも言い替える。日がな一日白虎の壁画に心酔する。

秋暑し小屋一杯の薪を割る 坂東 久平

薪割り隊奮闘。機械力を駆使しても一汗、二汗。廃材の再生に小屋一杯は大仕事。残暑が厳しい。ご苦労さん。

ナラ枯れと田の色コラボ矢田の色 むら 坂東 久平

「田の色」は稲の稔りの色を指し季語。矢田の丘陵にもナラ枯れが侵食。この相対を一行詩にしたのが味噌。

台風去る川一段と太りたり 八木 順一

今年の台風は異色の足取り。列島は一喜一憂。河川の増水を「太る」の措辞が面白い。諧謔味あり。

微笑みの円空仏や秋の山 八木 順一

円空は江戸時代前期の僧侶。十二万体の造像を発願し、現在、約五千体が確認されている。木彫りの姿に癒される。

路傍の堆肥に太る茅茎かな みちばた ざいき 小山 喜与男

里芋でしょうか。生育が著しい。道端の堆肥に育つ芋あり。これは栄養過剰のメタボリック。肝心の実はどうですか。

彼岸花万葉びどのお出ましか 桜木 晴代

曼珠沙華は万葉人の精霊だろうか。赫リとした色は亡き人の血潮だろうか。口語体の面白さ。

空と海ひっくり返ってうろこ雲 桜木 晴代

秋の空は時に大海原の写し絵となる。鱗雲が白波の如く。空感が広がる。俳句の醍醐味。

田の神も仰天案山子の二本足 古川 祐司

何処の案山子。里山の案山子？一章二句の作りが良い。現代の案山子も足が弱くなつてね。時代ですナ。

アルバムにかの人もゐて蕎麦の花 古川 祐司

故樋口善雄さんの一周忌が近い。作者の追想句。人生が長くなると、あの頃、あの時の亡き人を思う。

水色の朝顔そばに野良仕事 羽尻 嵩

自前の畑仕事。一服して朝顔の花に気付く作者。良いですナ。こんなゆとりが必要な時代。

追憶の年史をめくる秋の風 羽尻 嵩

学校時代の過ぎし日进行を思いやる。教員生活の過去への反省。秋は感傷の季節でしょうか。思い出は尽きませんナ。

地獄より誘ふ魔手の火焰茸 川井 秀夫

地獄の使者か、里山に現る。猛毒の主、タッチは禁物。昔、月夜茸をシメジと間違え生死を彷徨った人がいた。剣呑・剣呑。



癒しの散歩道

切なくも揺れる心に秋雨の音

谷川萬太郎



秋雨の嘆きは軒先の雨だれの音に似て  
何が悲しくて心を濡らすのだろうか  
やるせなさに遠ざかる貴女の潤んだ瞳  
直向きに耐えて紅く萌えるサルビアよ

恨めし無常の雨に草花もどかしく揺れて  
雨雲に隠れし秋の景色は痺れを切らす  
心乱れ動き出した雨雲いつしか西に消え  
雲間に広がる青空に抱かれし紅薔薇よ



ならやま茶論

「秋の水辺で」

竹本 雅昭

翁：おい、そこへ止まるなよ。チャッチャッと  
草刈してるんやから、早よどいてんか。

トンボ：今、私等の大事な“いとなみ”中なん  
ですから、そんなにヤイヤイ言わんでも  
よろしいやろ。

翁：そんなこと元より承知、しかし、あんたら  
8や3の字になって、二組も三組もよって  
こんでもえゝやろ。草やったらそこらに  
一杯あるやろに。

トンボ：あゝ、ひよっとして焼餅焼いたはん  
のと違う。

翁：バーカ、もうそんな年やないわ。ほんでも  
そんな格好でよう飛べるな、  
どないなってんねん。

トンボ：まあ、じっくり見といて下さい。今、  
ハネムーン中やから、すぐサイナラしますわ。

翁：今どこでも赤トンボが、ようけ飛んでる  
けど、あんたらはどうして相手を選ぶ  
んや。

トンボ：そりゃあ人それぞれで、顔や  
スタイル、それから相性かな。

翁：わしから見たら皆同じ様に見えるけど、  
違いがさっぱり分かんないな。

トンボ：そうですやろ、だけど我々の広角  
ブルーアイで見ると一目瞭然ですわねん。  
私は美男美女のイトトンボの子をと  
思って、美人の彼女に惚れましたんや。

翁：へえー、えゝこと聞いたわ。わしも  
来世には、きっとブルーアイの外人さん  
になってこようかい。

～終～





皆様方からのご応募をお待ちしています。  
絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸作品  
パッチワーク・切り絵など



▲有元 康人 「アジサイ」(オイルパステル)



▲田中 克彦 「河童川太郎、森恵、兄妹」



▲鈴木 末一 「鼻」(ループタイ)



▲小島 武雄 「猫」(陶芸)



▲八木 順一 「宇治、朝霧橋」(水彩画)



# ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず  
活動予定日

11月	3 (祝)	10 (木)	17 (木)
12月	1 (木)	8 (木)	15 (木)
	22 (木)		

- ◆場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約 20 haの里山林地（県有林）
- ◆集合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆終了予定：午後3時

◆アクセス

- ① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10 分
- ② 近鉄奈良駅：バス 1 3 番乗り場 115 系統  
8：28 発、高の原行き（平日）
- ③ 近鉄高の原駅：バス 1 番乗り場 115 系統  
8：36 発 JR奈良駅西口行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車  
徒歩 7 分

- ◆携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）



- ◆環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参ください。



- ◆連絡先：八木 順一

## 里山 Gr



11/3 協働作業の日  
枯死木伐倒・枝の整理  
マキ割り・玉切り

南側部分皆伐地区下草刈り・雑木伐倒整理  
(協働作業)

10 17

萌芽・植樹林の調査／枯死木伐倒・枝の整理  
マキ割り・玉切り／経団連の生育調査  
雑木伐倒整理

24

枯死木伐倒・枝の整理／マキ割り  
雑木伐倒整理

## エコファーム Gr



11/3 協働作業の日

FF 奈良交流会／芋掘り（紅はるか）／落花生収穫

10

タマネギ エンドウ畑準備  
ミズナ チンゲン菜 菜花 移植

17

タマネギ 植え付け エンドウ播種  
一寸そら豆 移植

24

かぼちゃ畑の土地改良（チップ入れ）  
ボカシ肥料作り

## 景観 Gr

11/3 協働作業の日

整備：そば収穫／脱穀／整理（協働作業組入希望）

ビオ：池整備

花：紫花菜・矢車菊移植、花生姜畑整備

パト：丸太階段補修

10

整備：そば脱穀／整理／乾燥

ビオ：西池生物調査

花：モミジアオイ移植、ボタンクサギ撤去

パト：丸太階段補修

17

整備：BC 周辺の草刈り／整備

ビオ：池整備

花：シモツケ移植、菖蒲園草取り

パト：丸太階段補修

24

整備：そば祭り

ビオ：西池生物調査

花：そば祭り手伝い

パト：テント倉庫の整理



# 行事案内 part 1

## 11 月月例研修会ご案内 探そう！いろんな紅葉 (馬見丘陵公園)

晩秋になり目の前に冬がやってきます。樹木たちも、この季節を乗り越える冬支度に懸命です。この1年ご苦労様と、働き詰めの木々の葉にも別れをつけるのです。紅葉の一番美しいときでしょう。次世代への希望を託し、様々な工夫を凝らした木の実も成熟します。森の生き物たちも体力をつけるのに懸命です。

ご存じの樹木や草花も見つかることでしょう。秋の七草は、終わっているかな？五感を総動員して、ゆく秋を慈しみましょう。

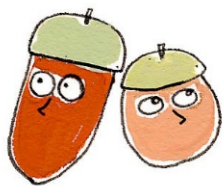
めずらしい針葉樹の紅葉もみられます。

ご参加お待ちしております。

- ・日 時：11月22日(火) 10:00～14:30
- ・場 所：馬見丘陵公園 中央部より北？南？  
(中央公園館前からぶらりぶらりと…)
- ・集 合：中央入口“公園館”前広場 10時
- ・準 備：昼食、飲み物、雨対策、あれば図鑑  
ポリ袋、
- ・アクセス：無料駐車場あり(中央Pが近い)  
{電車・バス}

◇近鉄大阪線五位堂駅 北口下車  
奈良交通バス33系統 馬見丘陵公園行き  
9:23分発 15分 280円  
(次のバスは、少し遅れるが、公園館前で  
打ち合わせ中に到着)

◇近鉄田原本線池部駅下車  
2分 緑道北口  
きれいな公園の緑路を自然  
観賞しつつ20分ほど「中央公園館前」まで歩きます。



・担当：阿部・辻本

## 1 1月歴史研修会ご案内

### 「聖徳太子と秦河勝」

～秦氏の事績を訪ねる・広隆寺、松尾神社～

丁未<sup>ていび</sup>の乱(587年)は、仏教の礼拝を巡って蘇我馬子と物部守屋が戦いましたが、秦河勝は厩戸皇子を守護しつつ、守屋の首を斬ったといわれています。(出典：上宮聖徳太子伝補闕記)

河勝は、京都・太秦を本拠地として、聖徳太子の側近として仕えました。今回訪問先の広隆寺や松尾大社も秦氏所縁の場所です。

木島<sup>このしま</sup>神社(蚕ノ社)の三柱鳥居(日本唯一)、広隆寺の国宝第一号・弥勒菩薩は、必見です。



晩秋の太秦・松尾で、歴史の渚を歩き、最後に嵐山の紅葉を楽しみましょう。

### ←紅葉の渡月橋

多数のご参加をお待ちいたします。

- 1 日時： 11月15日(火) 雨天決行
- 2 集合： 近鉄 大和西大寺駅 南口  
AM 8:30分出発(生駒交通バス)
- 3 参加費：3,500円(バス代金)  
拝観料(広隆寺：700円)は個人負担
- 4 コース：  
西大寺駅～木嶋神社～広隆寺～蛇塚古墳～  
梅宮大社(昼食)～松尾大社～法輪寺～  
嵐山・渡月橋～西大寺駅(帰着17時頃)  
\* 当日は秋の観光シーズンで、交通渋滞が予想されますので、スケジュールを変更する場合があります。  
\* 昼食のお弁当をご持参下さい。
- 5 申し込み： 事務局 古川 祐司まで

(担当世話人：古川・川井・坂東)







## 行事案内 part 2

創立 15 周年記念

### 第 7 回新そば祭りご案内

9 月 1 日、ならやまの皆さん総出で播いていた  
だいた蕎麦畑は、稔りの時期になっていますが、  
10 月の不順な気候が気になるところです。

さて、恒例の「新そば祭り」もはや 7 回目とな  
りますが、今年は当会 15 周年の記念行事として  
行いますので、当クラブの知恵を絞った新企画で  
盛り上げたいと一同大いに張り切っています。

新蕎麦は、日頃鍛えた腕によりをかけて打ちま  
すが、今回は特別の「ならやまそば料理」で、新  
そばの風味を満喫していただきます。内容は、当  
日のお楽しみとします。

また、この機会に「ならやまの景観づくり 10  
年と蕎麦」をテーマに、パネル展示を試みます。  
懐かしい写真も盛り込んで、皆様とその歴史を振  
り返っていただきたいと思っています。なお、お  
手元にとって置きの写真がありましたら、当方ま  
でお声を掛けてください。

今年の 10 周年記念行事の「新そば祭り」にご  
期待ください。

#### 《実施要領》

- ①日時；11 月 24 日〈木〉11 時 30 分～13 時  
(雨天の場合、12 月 1 日〈木〉に順延)
- ②参加料； 300 円
- ③持帰り； 500 円(数量限定、予約制)
- ④その他； お椀、箸をご用意下さい。

(そば文化クラブ 古川祐司)



### 12 月ならやま活動&行事予告

\*ならやま活動

- 12 月 1 日(木) 協働作業の日
- 12 月 8 日(木) 芋煮会 雨→12/15
- 12 月 22 日(木) 迎春準備

\*月例研修会

- 12 月 12 日(月) 北・山の辺の道ハイキング
- 12 月 12 日(月) 忘年会 (雨天実施)

\*自然教室チーム

- 12 月 7 日(水) 秋の奈良公園 紅葉狩り

\*歴史文化クラブ

- 12 月 20 日(火) 地元史の深掘りと座学

## 奈良学クイズ

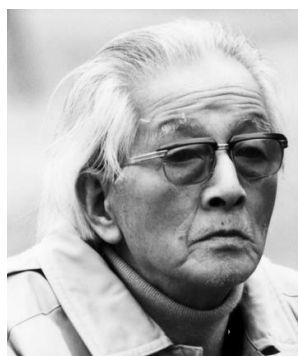
[問 1] 次のことばが詠まれている短歌に  
ついてお答えください。

「ちとせ あまり・・・ひとひのごとく  
・・・」

- ① この短歌一首をお答えください。
- ② 作者名をお答えください。
- ③ 詠まれた場所をお答えください。

[問 2] 次の写真について

- ① 人物名をお答えください。
- ② どのようなジャンルで活躍されたのか、  
お答えください。



#### 【応募要領】

- (1) 締切日  
11 月 3 日
- (2) 記念品  
?!?!?

(3) 応募方法 メール

[narayama@naranature.com](mailto:narayama@naranature.com)

## 平成28年・10月度幹事会報告

日時： 9月27日(火) 14:00~17:00

場所： 奈良市中部公民館 2F 学習室

出席者：22名 欠席者：1名

議事:

I. 会長挨拶：共通理解を深める為更なるグループ間のコミュニケーション促進をお願いする。

### II. 事務局・会計報告

- ① 会員数 151名 (前月より変更なし)
- ② 9月末時点の年会費未納者は退会扱いとする。
- ③ ならやま自然林散策路カエндаケ発生対処。
- ④ 会計報告：8月度収支報告

### III. 活動・行事関係、課題・懸案・確認事項

1. 3ヶ月並びに当月スケジュールの検討と確認。

- ・10/22 家族芋掘りイベント、雨天時は中止。
- ・10/6 一斉協働作業は観察路の整備実施。

2. ならやまプロジェクト関係：配布資料説明

- ・安全マニュアル作成検討。次回幹事会提出。

3. 活動報告と予告

- ① 月例研修会 (会報記事参照)
  - ・9/30 雨天時の対応検討。
  - ・10/15~16 一泊研修欠員有り、2名募集。
- ② 自然教室 (会報記事参照)
- ③ 歴文研修 (会報記事参照)
  - ・10月は予定なし。

4. イベント (報告と予告)

- ① 10/15 芋掘りイベント、午後は里山観察会。
- ② 佐保台小学校体験学習：10/20 稲刈り 27 脱穀
- ③ 11/24 新そば祭り企画内容承認。

5. 林野庁交付金事業進捗状況説明。

6. 経団連助成金事業進捗状況説明。

7. アダプトプログラム活動状況説明。

IV. 広報関係：ネイチャーなら 11月号編集内容確認。会員専用ページ「ネイチャー文庫」説明。

V. 周年行事 (事業)：15周年記念行事として来年1/22 記念講演会・祝賀会を開催する。

記念誌編集は10月中に脱稿、11月印刷予定。

次回幹事会は、10/25(火)午後2時中部公民館

以上

## ◆ 申し合わせ ◆

\* 通常活動日【木曜日】や屋外のイベントは、前日19時前のNHKの天気予報で、当該地域の午前の降水確率が60%以上の場合、中止とします。

\* 通常活動日が中止になった場合は、翌日【金曜日】を振替活動日とします。

奈良県北部の降水確率は次のURLでも確認可能です。(http://www.jma.go.jp/jp/yoho/335.html)

\* 臨時活動日を月曜日にする事があります。(事前に担当役員から連絡します。)

### ◆ サラリーマン終活



ある雑誌で、定年後の人生についての特集がありました。「定年後の30年をどう生きるか」

ここ40年間に約10歳も平均寿命(男性：80.5歳、女性：86.8歳)が伸び、現役はリハーサル、定年後は本番ともいえる程の状態です。

経済的な備えも必要ですが、健康で精神的にも満足な生活を送るための心構えとして、定年後に「ここだ」と思う居場所を決めることが大事です。

知識・経験を活かし、明るく若々しく、バランス感覚や柔軟性を持って、自分の役割や空気を読み、そこに溶け込めるような努力が必要です。

「ならやま」は、会員の皆さんの「居場所」になっているのでしょうか。(行々子)

## 会報誌【ネイチャーなら】・第178号

発行：奈良・人と自然の会

会長 鈴木 末 一

URL：<http://www.naranature.com>



編集チーム代表：坂東久平